

令和3年9月28日

公益社団法人 日本産婦人科医会  
会長 木下 勝之殿

一般社団法人 日本マススクリーニング学会  
理事長 大浦 敏博

郵便法改正による郵便物の配達日数繰り下げの問題点と新生児マススクリーニングへの影響、および産科分娩施設の先生方へのお願い

#### 1. 郵便法の改正について

郵便法の改正により、2021年10月から土曜日配達が休止され、翌日配達も段階的に廃止となります。配達日数が1日繰り下げられ翌々日の配達となるため、最長で3日到着が遅くなります。

例えば、水曜日午後に採取されたろ紙血は通常乾燥後翌日の木曜日に投函されます。現在は翌日の金曜日に届いていますが、改正後は月曜日到着となり、採血から検査施設到着まで、5日間を要することになります。

#### 2. ろ紙血の到着の遅れにより、危惧されること

新生児マススクリーニングの対象疾患は発症する前に診断するのが原則です。2万人に一人と比較的頻度が高い先天性副腎過形成症(21 水酸化酵素欠損症)塩喪失型を例にとると、日齢 11~12 に重篤な低ナトリウム血症(130mEq/L 以下)、高カリウム血症(7mEq/L 以上)の症状が出るとされています。日齢7までに結果が出るのが理想ですが、少なくとも日齢 11~12にまでには結果が判明することが重要です。

また検査施設ごとに多少異なりますが、採血後 7~10 日以上経過し到着したろ紙血検体については、不備検体として再度採血をお願いしています。不備検体は年末年始など長期連休明けに多くなりますが、今後ろ紙血を数日分まとめて投函した場合

などに、長期連休以外でも不備検体が増える可能性があります。

### 3. 産科分娩施設の先生方へのお願い

ろ紙血の検査施設への到着が遅れることで、①一部の重症型では結果判明前に発症してしまう、②不備検体が増加する、ことが危惧されます。そこで、以下の3点をお願いしたいと考えています。

#### **(1) 日齢 4(生後 96 時間以上、120 時間未満)でろ紙血の採取を行う。(継続して郵送対応の場合)**

現在推奨されている採血日は日齢 4～6 となっておりますが、退院日が早くなる傾向にあり、日齢 4 で採血している施設は既に約 40%となっております。

#### **(2) 採取したろ紙血は当日か遅くとも翌日の早い時点で発送する。**

ただし、ろ紙血は室温、水平状態で十分自然乾燥(2～4 時間位)させてください。生乾きのままビニール袋に入れると多湿状態となり変質、失活が進みますので、注意が必要です。

#### **(3) 翌日発送の場合は冷蔵(4℃)保存をお願いします。**

やむを得ず保存する場合は、よく乾燥した後、検体の劣化を防ぐため 4℃保存でお願いします。数日分まとめて投函することや発送忘れがないように注意してください。

検査施設へのろ紙血到着が遅くなることが予想される場合は、速達やレターパックライトの使用もご検討頂ければ幸いです。

ご検討のほど、よろしく申し上げます。

ご意見、ご質問がございましたらマススクリーニング学会事務局まで、メールでお願いします。

学会事務局アドレス info@jsms.gr.jp